

第3回 福崎町地域公共交通会議 議事録

1. 日 時 平成23年3月3日(木) 14:00~15:30

2. 場 所 福崎町役場 2階 大会議室

3. 出席者

	所 属 団 体	役 職 名	氏 名	代理等
会 長	兵庫県立大学環境人間学部	教 授	松本 滋	
委 員	福崎町区長会	副 会 長	中田 光夫	
	福崎町老人クラブ連合会	会 長	庄 幹正	
	福崎町商工会	会 長	後藤 雅一	
	J R西日本福崎駅	副 駅 長	武智 芳直	
	神姫バス株式会社姫路営業所	所 長	月野木 謙一	
	社団法人兵庫県バス協会	専務理事	小西 一夫	
	社団法人兵庫県タクシー協会西播地区(神崎交通有限会社)	副 会 長	依藤 義光	
	神姫バス労働組合	書 記 長	中川 貴水	
	神戸運輸監理部兵庫陸運部	首席運輸企画 専 門 官	木村 淳三	本田 泰彦 (運輸企画専門官)
	中播磨県民局姫路土木事務所	企画調整担当 主 幹	寺西 章浩	
	福崎警察署交通課	課 長	宮辻 義信	
	福崎町議会(民生常任委員会)	副 委 員 長	志水 正幸	
	福崎町議会(産業建設常任委員会)	委 員	吉識 定和	
	福崎町	副 町 長	橋本 省三	
	福崎町まちづくり課	課 長	志水 利雄	
オブザーバー	近畿地方整備局姫路河川国道事務所	道路管理 第二課長	高村 裕一	
	兵庫県県土整備部県土企画局交通政策課	副 課 長	竹林 誠	

(順不同 敬称略)

	所 属 団 体	氏 名
事務局	福崎町健康福祉課	高松 伸一
		三木 雅人
		村上 祥教
	(株)丸尾計画事務所	丸尾 哲也
		西村 和記
		小林 巧

4. 配布資料

- 次第
- 座席表及び名簿
- 資料1 アンケート調査による主な自由意見
- 資料2 公共交通再編方針案の検討
- 資料3 実験運行案の検討
- 資料4 地域公共交通確保維持改善事業について

5. 傍聴の可否

傍聴可、傍聴人4名。

6. 開会

(事務局)

ただ今から第3回福崎町地域公共交通会議を開催いたします。

本会議は設置要綱に則りまして公開とさせていただきます。司会進行をさせていただきます、事務局健康福祉課の高松です。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、松本会長よりご挨拶をいただきます。

7. あいさつ

(松本会長)

本交通会議も回を重ね、今年度最後の交通会議になります。有益なご意見を頂ければと思いますのでご協力よろしくお願いいたします。

8. 報告事項

事務局より、アンケート調査による主な自由意見について説明。(資料1)

(委員)

資料1の1頁の(1)サルビア号についての意見で「サルビア号は廃止すべき」という意見が一番多くなっていますが、なぜその様な意見が多くなるのか把握していれば教えてください。

(事務局)

サルビア号は、隔日運行で便数も少ない、家からバス停まで遠い、また、全ての集落を周るため大きく迂回するなどの理由で利用者が少ないため、廃止すべきという意見が多くなっていると考えられます。

(委員)

資料1の2頁の(7)駐車場の意見については「駅前に駐車場を増やしてほしい」という意見が多くありますが、現在福崎駅前には、町営の駐車場があり、その駐車場は空きがある状態です。「駅前に駐車場を増やしてほしい」という意見の具体的な内容として、例えば「駅の西側に駐車場を増やして欲しい」という意見内容なのか、または、町民の方が駅前の町営駐車場のことを認知しておらず、「駅前に駐車場を増やしてほしい」と言っているのか具体的な意見内容を教えてください。

(事務局)

「駅前に駐車場を増やしてほしい」という意見は、現在駅前周辺にある駐車場は月極が多く、一時預かりの駐車場が少ないのでその需要が出ていると考えられます。また、町民の方が駅前に駐車場があることを認知していないということもあると考えられます。

9. 協議事項

(1)公共交通再編方針案の検討について(資料2)、(2)実験運行案の検討について(資料3)

事務局より、公共交通再編方針案の検討について(資料2)と、実験運行案の検討について(資料3)を説明。

(委員)

資料2の5頁で、実験運行案としてサルビア号とデマンド型交通を運行し比較検証すると記載がありますが、デマンド型交通を導入すると決まっているのであれば、自由意見で「廃止すべき」という意見の多いサルビア号と、デマンド型交通の比較検証を多額の費用をかけて行う意味がないと思います。比較検証するとしても、まずは先にサルビア号の再編を行った後、資料3の例4で示されているような川西地区でデマンド型交通を運行し、川東地区でサルビア号を運行するなどして、比較検証するべきだと思います。

(事務局)

今回の資料では、一つの例示としてサルビア号とデマンド型交通の実験運行案を示させていただいております。今後、実験運行を計画していく上では、先ほどいただいた意見などを踏まえ、交通事業者様等と協議を重ね実験運行の調整を行いたいと考えております。

(会長)

実験運行を行うに当たっては、新たに導入するデマンド型交通が優位になる条件で比較するのではなく、サルビア号とデマンド型交通の条件を出来るだけ合わせて実験運行を行っていく必要があると思います。

(委員)

現在神姫バスが運行している定時定路線型のバス路線がありますが、年々利用者数が減少しております。資料2の2頁で公共交通機関別の役割として、路線バスは「町外との交流を支える基幹軸」としての役割と記載されていますが、現在運行している路線バスは福崎町内にもバス停があり、町内移動でも利用されています。また、新たにデマンド型交通を導入することにより、現在運行している路線バスとルートが競合し、さらに路線バスの利用者数の減少が考えられますが、その点をどのように考えていますか。

(事務局)

町内にも路線バスのバス停があり、利用されていることは存じ上げていますが、町外への利用が多く、町としては、路線バスの役割は「町外との交流を支える基幹軸」という役割の方が強いと認識しております。

(会長)

今回行ったアンケート調査結果より、福崎町民の移動は、町内、町外移動に関わらずクルマ利用がほとんどとなっています。今後、高齢化の進展、環境問題への配慮、ガソリン価格の高騰などから、クルマ利用が気軽にできない移動に困る人が多くなると考えられるため、早く地域公共交通を充実させることが重要であると考えます。そのためにも、互いに競合し

ないように、各交通機関別に役割を分担することが重要であると思います。

(委員)

資料2の2頁で公共交通機関別の役割の図が記載されておりますが、点線の矢印と実線の矢印はどのような違いがあるのですか。

(事務局)

点線の矢印は町内での日常生活に必要な移動を支える役割を示し、実線の矢印は町外との交流を支える基幹軸としての役割を示しております。

(委員)

実験運行案で4つの例が示されていますが、実験運行はこの例をすべて行うのでしょうか。それとも、4つの例から1つを抽出し実施するのでしょうか。また、今回の会議ではどこまでを議論して決めていくのかを教えてください。

(事務局)

今回の交通会議では、示させていただいている実験運行案の4つの例に対して意見をいただきたいと思っております。また、実験運行は4つの例をすべて行うのではなく、1つに絞って3ヶ月から6ヶ月程度の期間で実施したいと考えております。

(会長)

実験運行を行っていく上で、運行システムを次から次へと変更していくと利用者が混乱するため、実験運行は一つの運行案に絞って実践するべきだと思います。

(委員)

資料2の1頁で、「クルマを気軽に利用しづらく、移動に困っている人」が約1,500人となっており、「高齢者でクルマを気軽に利用しづらく、移動に困っている人」が約650人ですが、高齢者以外で移動に困っている850人はどのような人ですか。

(事務局)

高齢者以外で移動に困っている約850人は、15才以上の免許を持っていない人が大半を占めております。

(委員)

地域公共交通会議は、現在運行している公共交通を中心に地域の交通を検討する会議だと考えていましたが、今回の交通会議は福祉的交通を中心に検討しているように思います。地域公共交通会議では、総合的に公共交通を考えていくべきだと思います。

また、サルビア号の経費と現在運行している路線バスに対する補助額は年間どれぐらいかかっていますか。今後、デマンド型交通を運行するのは、かなり経費がかかると考えられますが、デマンド型交通に必要な経費をどの程度見込んでいますか。

実験運行によりサルビア号とデマンド型交通の両方に経費がかかりますので、会議の原点に戻って現在運行している公共交通の再編も検討するべきだと思います。

(事務局)

サルビア号の経費は平成22年度予算では年間1,147万円となっており、県から年間83万円の補助金をいただいております。路線バスに対する補助は、平成21年度決算で年間31万円となっております。デマンド型交通の必要経費としては、運行方法により変わりますが、車両を借りる経費、オペレーターの人件費などで、現在のところサルビア号にかかる経費と同程度の経費がかかると考えております。

また、実験運行の段階では、サルビア号とデマンド型交通の両方に経費がかかりますが、国土交通省所管事業の申請を行い比較検証を行った上で、最終的にはどちらか一つに絞って運行する予定です。

(会 長)

現在事務局が考えているデマンド型交通は、電話予約した後1時間以内に迎えが来るような高度なシステムではなく、例えば来てほしい日の前日に電話予約をし、次の日に迎えが来るシステムのイメージです。予約がなければ運行しないので、利用者がいない時でも運行するサルビア号などの定時定路線型より効率的であり、また今まで運行できなかった地域へも需要があれば運行できるようになるというメリットがあるため、デマンド型交通の導入検討も必要だと思います。

(委 員)

資料2の3頁でアンケート結果からいきなりデマンド型交通の導入が必要ということになっていますが、例えば移動に困っている人の移動目的を調べるなど、もう少し分析を行う必要があると思います。

(オブザーバー)

資料2に示す内容で、デマンド型交通の導入はいきなりすぎると感じております。デマンド型交通の導入を検討する前に、現在運行しているサルビア号の問題点や改善点を整理・検討する必要があると思います。

(委 員)

デマンド型交通を導入する際は、高齢者など利用する人が分かりやすく利用しやすいものにしていただきたいと思います。また、今回のアンケートで高齢者が何処の地域、施設をよく利用し、どの様な目的で移動しているか具体的に分かれば教えてください。

(事務局)

アンケート調査結果から、移動に困っている人は高齢者が多く、通院・買い物目的の人が多いと把握しています。

高齢者の具体的な行先は、ライフまた、その周辺の商店や医療施設、文化センター、エルデホール、文珠荘などの公共施設が多く、移動の目的としては買い物・通院が多くなっています。

また、第2回地域公共交通会議において、アンケート調査結果の分析内容やサルビア号の問題点等からデマンド型交通導入に至った検討過程をお示しし、議論いただきました。本日は、前回資料をお示しすると資料が膨大になるため、割愛させていただいております。詳しくは、第2回資料を見ていただければと思います。また今後、そのデータを見ながら運行計画等に反映させていきたいと考えております。

(委 員)

アンケート調査結果を用いて、新たな公共交通の導入について交通会議で議論していくことも必要ですが、アンケート調査だけではなく、直接住民からの意見を聞く機会を設けていく必要があると思います。

実験運行を行うとしても、現在運行しているサルビア号をどうするかという問題、デマンド型交通の予約をどこで受け、どの様な体制で行うかという問題、また、一度実験運行を開始すると変更しにくいという問題、財政的にも負担が大きいのという問題があります。さまざま

まな問題がある中で実験運行を行う必要性はあるのかどうか疑問に思います。

(オブザーバー)

アンケート結果だけでデマンド型交通の導入検討を行うのではなく、各地域に入って住民の意見を直接聞くべきだと思います。仮にデマンド型交通を導入していくに当たっても、資料の中に今後のスケジュールが記載されておらず、今回の交通会議ではどこまで検討していけばいいのかも分からないのでそれを示していただきたいと思います。

(事務局)

申し訳ございません。先に今後のスケジュールを示すべきでした。資料4で今後のスケジュールを示しておりますので、資料4の説明をさせていただきます。

10. その他

事務局より地域公共交通確保維持改善事業と今後の予定スケジュールについて説明。

(資料4)

(委員)

地域公共交通確保維持改善事業の補助要綱が3月下旬に出されます。現在のところ、はっきりと補助の対象が分かりませんが、補助要綱が出れば、どの様なものが補助の対象になるのかははっきりと示される予定ですので、もう少々お待ちください。

(会長)

デマンド型交通等が補助対象にならない可能性もあるということですね。

(委員)

はい、補助対象にならない可能性もあります。

(委員)

本来の地域公共交通会議は総合的な公共交通の再編を考える会議であり、コミュニティ交通というのは、地域のバス路線や鉄道を補助する役割のある交通だと考えております。

今回のアンケート調査の結果、福崎町外に移動する人も多いという結果も出ており、まずは、広域的な公共交通の改善を考えた上で、それを補助する地域のコミュニティ交通、デマンド型交通を考え、総合的な公共交通の再編を行うべきだと考えております。

デマンド型交通の導入ありきで福崎町内の移動だけの交通を考えるのではなく、福崎町外へ出る交通も考えた総合的な交通計画を立てた後に、実験運行の計画を立てるようにしていただきたいと思います。

(事務局)

総合的な交通計画という観点から、めざすべき公共交通網を検討しており、まずは最も移動に困っている人の移動手段確保として、当面の再編案を検討しています。その当面の再編案をめざして、実験運行の検討を進めていきたいと考えております。

(会長)

サルビア号は利用料金が無料にもかかわらず利用者数も少なく、町民からも廃止すべきという意見が出ております。デマンド型交通を導入することにより、飛躍的にサービスが向上するというのは期待できませんが、需要的に見るとデマンド型交通の方が効率的であると思います。交通弱者を守る最低限のサービスを検討していくべきであると思います。

総合的な公共交通を考えていかなければならない考え方もありますが、その前に、まず

は交通弱者を守る最低限のサービスを、どのような形で提供していくかを議論するべきだと思います。

(事務局)

サルビア号は運行開始から12年が経過し、さまざまな意見を受けそのたびに再編を行ってきましたが、現在では利用者も固定され、残念ながら利用者数増が期待できない状況となっております。また、デマンド型交通の導入ありきではなく、サルビア号の再編も考慮した実験運行案の検討を行っていきたいと考えております。

(委員)

デマンド型交通の導入は、タクシー事業者もなく公共交通が全くない地域で行うものだと考えておりました。デマンド型交通の導入は運行方法次第では、タクシー事業者にとって脅威になる可能性もありますので、タクシー事業者も共存できる方向で導入案を考えていただきたいです。

デマンド型交通の導入により、福祉チケット制度はなくなるのでしょうか。

(事務局)

現在のタクシー券を廃止する予定はございません。

(会長)

利用者の取り合いをするのではなく、公共交通全般の利用者数増加をめざして、各関係者が協力していくことが重要だと思います。

(委員)

各地域によって交通需要が違ふと考えられるので、地域懇談会等で地域の人の生の意見を聞き、アンケート調査の結果も参考にしてどういう形がいいのかを提案していただければと思います。また、まちづくりの観点も含めた福崎町の公共交通再編を考えることも重要だと思います。

(事務局)

資料4の2頁に記載しておりますように、平成23年度は町民懇談会等を開催して地域の意見を聞き、検討を進めていく予定です。

(委員)

本日の交通会議ではさまざまな意見がありましたが、今後の交通会議は福崎町の公共交通をどのように良くしていくかを前向きに皆様で考え、公共交通を支えていくような会議にしていきたいと思います。

11. 閉会

(会長)

今回の会議でのご意見、ご指摘を受け次回地域公共交通会議に向けて、事務局も準備をしていただきたいと思います。本日は、本会議に参加していただきありがとうございました。

(事務局)

次回の地域公共交通会議は6月開催の予定でございます。本日は、本会議に参加していただき、誠にありがとうございました。

これもちまして、第3回福崎町地域公共交通会議を閉会させていただきます。

以 上